

# 東生駒分教会

設立・昭和43年10月24日

祭典日・17日

奈良県奈良市



初代会長  
竹川 としゑ



初代配偶者  
竹川 萬次



二代会長  
竹川 由久代



二代配偶者  
竹川 俊治

昭和四十三年十月二十四日

初代会長 竹川としゑ 任命

昭和六十年十一月二十六日

二代会長 竹川由久代 任命

飾大分教会二代会長竹川としゑは、昭和三十三年九月に会長の任を後継者竹川俊治と交替した。六十七才であったが、以前から布教に向いていたあやめ池に住む飾大のよふぼくを手掛かりとして、

現在の土地に布教所を開設した。昭和三十五年である。当時はこの土地には電気も通じておらず、道路も細い畦道であったが、ここに布教所のささやかな建物を建てて布教を始めた。年を経ることに、近くの土地が開発されて住居も建ち、今では立派な街になっているが、文字通りの荒道開拓であった。次第によふぼく信者も増え、教会設立の気運も盛り上がり、昭和四十三年十月二十四日、竹川としゑを会長として東生駒分教会設立の允許を頂くことが出来たのである。竹川としゑ会長七十五才であった。

としゑ会長は、常日頃から、七十五才を過ぎても自分は年寄りではない。いつまでも現役の布教師であると言い、またその言葉どおりにおたすけ布教に、日夜をわかつたず勤めきつた。八十九才で出直すまで会長として勤め励んでいたとしゑ会長は、孫達からも「おばあちゃん」と言われたくないし、また他の人々にも

「私はおばあちゃんではありません」と言い切つて通つた。年老いても精神的にはいつまでも現役の布教師であることを願ひ、またそれを実践して通つた。昭和六十年五月二十六日に家族や多くのよふぼくに見守られ「お道は結構やな」と言いながら大往生を遂げた。



教会の外観

後任の二代会長には、としゑ会長本人の意志により、飾大の三代会長竹川俊治の妻である竹川由久代を早くから指名していたが、その思いもかない、昭和六十年十一月二十六日、竹川由久代が二代会長就任のお許しを頂いた。なお、二代会長就任に先立ち、客間及び教職舎の新築及び改装のお許しを頂き完成した。



神殿上段

教会のごく近くに住む役員家族は、二代会長が教会に泊まることができない時にも、玄関の門の開閉、日供神饌などもすべて責任をもって勤めてくれるようになった。

東生駒分教会は、新興住宅街では、

もつとも古くから在る屋敷であり、住民から親しまれており、なにかと街の発展の相談をかけられるような存在となっている。ありがたいことである。



教祖御巡柱真の前の継承

を、近鉄学園前駅へ行く住民の利便を計り、また車も通れるよう四メートル道路に幅を拡げるにあたり、土地の人達とも相談して教会の境内地の一部を提供し便宜をはかったことがある。土地の住人から大変喜ばれ、今でも何かの時に話題にのぼることがある。

二代会長竹川由久代は昭和七年十二月二十五日、廣行分教会三代会長本庄保、はなの長女として生まれ、昭和三十年に飾大の三代会長となる竹川俊治と結婚。

平成十年頃、布

教所時代

に幅五十

センチ

メートル

ほどの畦

道であつ

た教会の

前の道路

会長夫人としておたすけに、またよふばく信者の修理丹精に励んでいたが、東生駒の二代会長となっても、東生駒の会長の御用は勿論のことだが、飾大でのつとめにも懸命につとめ、東奔西走に明け暮れている。



して迎え継承柱真様をお

なお、平成十九年から大阪教区の女子修練所（二ヶ月間の女子布教者研修所）の寮長として任命をいただき、若い女性布教者の丹精に励んでいる。一日として席の暖まるヒマもない教会長である。